

令和3年度

第2回連携中枢都市圏ビジョン懇談会議事概要

日 時：令和4年3月23日（水）午後2時～3時30分

場 所：鳥取市役所 本庁舎7階 議会全員協議会室

出席者：委員 出席 下田敏美委員、青木博之委員、谷田一富委員、赤嶋三千男委員、小坂祐司委員、甲田紫乃委員、綱本信治委員、升田弘法委員、太田章太郎委員、中野ゆかり委員、坂本朋子委員、

欠席 田中節哉委員、石塚康裕委員、沼田宏一委員、田賀成史委員、秋山光行委員、山本武志委員、中村 暁委員、贅川 清委員

オブザーバー 鳥取県地域づくり推進部東部地域振興事務所 田嶋健一 所長
兵庫県但馬県民局総務企画室 中山友美 室長

事務局 鳥取市企画推進部次長兼政策企画課長 渡邊大輔、
同課課長補佐 平田政志、同課係長 古網有希、
岩美町企画財政課長 大西正彦、若桜町ふるさと創生課長 谷本 剛、
智頭町企画課長 酒本和昌、八頭町企画課長 岡崎好美
香美町企画課長 川戸英明、新温泉町企画課長 中井勇人

説明者 鳥取市市民生活部次長兼地域振興課長 漆原利明
鳥取市経済観光部次長兼経済・雇用戦略課長 大野正美
鳥取市経済観光部観光・ジオパーク推進課係長 川口隆
鳥取市都市整備部交通政策課課長 小森毅彦
鳥取市保健所保健医療課参事 橋本 渉
有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザー事業本部
ガバメント&パブリックサービシーズ 塚越敬介（オンライン）

1 開会

2 あいさつ

下田委員長あいさつ

3 議事

（1）連携中枢都市圏連携事業について〈事務局説明〉

①因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏事業の進捗状況について・・・資料1

（資料1について事務局説明）

<委員>

26番の「因幡・北但西部周遊バス運行支援事業」について、因幡・北但西部周遊に国道482号線を使えば面白いのではないのでしょうか。

<説明者>

現状としましては、岩美町や八頭町には、周遊箇所を設けている関係で負担金をいただきながら、鳥取市の観光コンベンション協会の方が主体となって、バスの観光周遊事業を組み立てています。この事業は、どちらかという圏域内の相互交流や、地元の方が地元のよさを知るところに主眼を置いた事業になっております。道路の状況などを確認した上で、そういったところに賛同して、周辺自治体にも負担金などのご協力をいただけるようであれば、検討の余地はあるかと思えます。ご意見ありがとうございます。

<委員>

7番の「森林保全推進事業」ですが、この事業はコロナの影響はないと思いますが、令和3年度のKPI見込みが、目標値の半分以下になっております。目標値に達していない要因は何でしょうか。せつかく予算化されている事業でありますので、雪が降らない、作業ができる間に、できてないところはちゃんと把握をして、予算を確実に執行できるような体制づくりというのが必要かと思えます。

<事務局>

ありがとうございます。今日はこちらの部分につきましてデータを持っておりませんので、また後日、確認いたしましてご報告いたします。

⇒報告内容

間伐等の造林事業面積の目標値を下回った要因としては圏域多くの市町で

- ①令和3年度は、7、8月に発生した豪雨及び台風9号により、多くの林道、作業道等の森林作業路網で被害が発生し、作業が遅延したこと
- ②例年より冬期積雪が多く、通常年で実施できる3月期の予定作業が困難となったことが影響しています。

<委員>

資料3の45ページに、地域の魅力を生かした教育の実践というところで、中高生の年齢の若い間に、地元企業と、の接点を設けることで、将来的に地元で、返ってくる人が期待されますということが、考察で書いてありますが、本当にその通りだなと思えます。資料1の31番「若者の地元定着促進事業」ですが、高校生を対象にした圏域の企業見学会を実施するっていう部分で、実践されているんだなと思えます。以前は、就職ということで、商業高校ばかりだったのが、普通科高校もされていて、とてもいいことだなと思えます。

圏域内の、例えば八頭高校だとか、他の智頭農林だとかあと、兵庫県側も高校も、声かけされているのでしょうか。企業についても鳥取県側だけでなく、兵庫県側の企業もあるので

しょうか。

<説明者>

企業見学会については、以前から行っておりましたが、今年度から、少しやり方を変えております。地域の経済の状況やいろいろな業種による仕事の多様性も含めて、事前学習を行っていただいた上で、少人数で各企業さんに分かれて、職業体験していただいた後に、それを踏まえて、学校の方でアフター学習、レポートをまとめていただくという流れになります。地域についてかなり深く学習をしていただくという形で、いろいろな地域の産業を知っていただくという学習方法に変えました。

これが非常に好評でして、以前は実業高校だけが企業見学に行っているような状態だったのですが、この事業については、鳥取西高校さんが初めて、進学校として参加をされました。これは、県外の大学等に出で行かれても、地域のことをきちんと知っていただくことでまた戻ってきていただくという趣旨でやっております。これが何年かしたら、実際にUターンをしていただくことで実を結んでいくのかなと考えております。

この事業については、特に鳥取市限定ということではなくて、兵庫県の北部の高校の方にも声掛けをさせていただいておりますので、もし、高校の方でご参加をしていただけるようであれば、ぜひとも参加をしていただきたいと思いますと考えております。県東部の4町についても同じでございます。

<委員>

私も、資料の1の31番「若者の地元定着促進事業」についてです。公共交通の分野でも、高齢化が進んでいたり、運転者不足ということで、人材確保が大変難しい状態となっております。

高校の時から、バスに興味を持っていただいたり乗り物に興味を持っていただいて、いきなりバスの運転をするのではなく、整備をしてみたり、事務所の方に入ってみたりして、育て上げて、いずれはバスと、または他の道に進んでもらったり、関係に進んでもらったりして育成に力を入れていかなければ人材が確保できないと考えております。この取組に参加させていただきたいと思っておりますが、それは可能でしょうか。

<説明者>

ありがとうございます。雇用情勢をみますと、この鳥取市におきましても、特定の業種でかなり人材の確保は難しくなっているという状況で、その業種の一つが、運輸業、運送業です。

鳥取市としても、労働移動を進めていく必要があると考えております。実際に、転職をしたいというニーズも一定量ありますけども、このコロナの関係で動きが止まっているというような状況にあります。そういったところを、例えば、そういう職種に向けた学習や支援、専用のアドバイザーをつけて、労働移動を促していくというような事業をこの4月から開始する予定にしております。

あわせて、この「若者の地元定着促進事業」につきましては、麒麟のまち圏域で行ってい

きたいということがございますので、これも鳥取市以外の地域の企業様にも手を挙げていただけるような制度になっております。前は、岩美町の企業様にも参加をしていただいて、学生を受け入れていただいたというようなこともございます。あとは、学校のニーズも聞きながら行っていくこととなりますので、その兼ね合いはあろうかと思えます。ぜひとも、お手を上げていただけると、私どもも助かります。よろしくお願いいたします。

②新規連携事業「麒麟のまち圏域における新型コロナウイルスワクチン接種の共同実施事業」について・・・資料2

(資料2について鳥取市保健所保健医療課説明)

<委員>

これは、仕事の関係で住所地以外のところで接種されたということでしょうか。

<説明者>

職場が住所地以外にある方であるとか、かかりつけ医が住所地外であるとか、それから、市だと予約が取りにくい時期があり、他の町で予約が取れたというような状況もありましたので、そういった部分を相互に補完したというような状況になっています。

<事務局>

新型コロナウイルスワクチン接種の共同実施につきまして新規事業で掲載をさせていただくということでご説明をさせていただきました。11月の会議の方で「麒麟のまちアカデミー運営事業」も掲載するというご報告をさせていただきました。

この2事業を追加して、全体として92事業になるということで、毎年度末に行う連携中核都市圏ビジョンの改定をさせていただければと思います。あわせて、語句等も修正させていただきます。

(2) 令和3年度多様な広域連携促進事業について・・・資料3

(資料3について有限責任監査法人トーマツ説明)

<委員>

資料3の24ページの企業アンケートの結果というところで、業種、地域の偏り考慮して全体で700件とありますが、規模によっても回答は異なると思います。700件はどのように抽出されたのでしょうか。また、700件にしたのはなぜでしょうか。

<有限責任監査法人トーマツ>

基本的には、業種や地域の偏りを考慮し、ランダムに抽出いたしました。企業の規模等を考慮しておりません。

件数については、アンケート調査をする際は、ある程度の規模で実施することで信頼性が確保されます。今回は、700件くらい配布をして、回答率を30%くらい見込めば、必要な回答数は確保されると判断して700件といたしました。

<委員>

地域や業種も大事ですが、規模によって技術や事業継承の意識、人材確保が全く違います。その辺りが、ある程度の範囲の中で、規模で示されたら、より納得感、地域の実情とか課題が見えてくるのかなと思います。

<委員>

資料3の5ページ、人口の通勤通学の地図がありますが、色が近似していてわかりにくいので、その辺りを考えてほしいです。

<事務局>

今回の調査資料につきましては、次期の連携中枢都市圏のビジョンの方にも一部掲載するように検討しておりますので、その際には見やすい色となるように、修正をして参りたいと思います。ご意見ありがとうございます。

<委員>

資料3の44ページの働き手の確保ということで、女性の社会進出を支援する取組が必要と考えられますということで、これも納得するところはあるのですが、鳥取県は全国で6番目に、共働きの世帯が多いです。この女性の社会進出を進めた方がいいと書かれたのは、女性の就労を調査した上での考察でしょうか。

<有限責任監査法人トーマツ>

麒麟のまち圏域は、全国と比較しまして、女性の社会進出の割合は高くなっております。それでも、M字カーブが見られますので、男女を問わず、働きやすさは大事ですけども、例えば子育てと仕事の両立というような取組を推進していく必要があると思います。

(3) 次期連携中枢都市圏ビジョン策定スケジュールについて・・・資料4

(資料4について事務局説明)

<質疑等なし>

(4) その他

<委員>

鳥取県の最低賃金と兵庫県の最低賃金は100円違いますが、どう考えますか。

<委員長>

地域によって最低賃金が違うと思いますので、その辺も踏まえてまた機会があればお願いしたいと思います。

<委員>

この今日の会議資料を見ると、まさに新温泉町は鳥取の皆さんに、医療を含めてすごく助けられているというような実情があるように思います。特に、岩美町さんには、ワクチン接種本当にお世話になっているというのが今日のデータで非常によくわかりました。

資料3の5ページを見ると、新温泉町からの通学というのが、平成27年で13.4%となっていますが、今はもっと高いと思います。地元の高校が、あつぷあつぷしているような

状況になってきているというのが実情です。

最低賃金については、確かに100円違います。ただ、我々の方は100円高いがために、商圈がどんどんしぼんでいる状況の中で、ものすごい負担になっているというのが実情です。かといって、鳥取から新温泉に働きに来てくれるかということ、それもほとんどありません。

そういった中で、こう見ると鳥取は20万人都市で、我々が1万3000人のところですよ。我々のところは、商圈が非常に小さいということがあるので、どんどん後継者がいなくなって後継者不足ということがあります。ですけども、鳥取は20万人の都市があるのになぜ後継者が少ないのかなというのも、疑問の一つです。ある意味では、最低賃金の問題もあるかもしれませんし、帰ってこないというところも感じております。

また、企業アンケート調査は、この回答数は少なすぎるように思います。2000件ぐらい取らないと、本当の詳しいデータは出ないのではないかと思います。

<事務局>

御意見ありがとうございます。後継者不足がなぜ起きているのかという部分に関しましては、やはり若者が帰ってこない、あるいは少ないっていうことも含めまして、様々な課題がある中での一つの結果なのかなとは思っております。

それから、企業アンケートの件数ですが、鳥取市が無作為抽出の住民アンケートを実施する場合は、40%前後の回答率というのが多いです。今回の結果、企業様のアンケートということで、で少し一般の個人の方より下がって、35.6%程度の回答率ですので、近い数字になっているのかなとは思っています。

ある程度の回答率を見越したところで、どれぐらいの企業の皆さんにアンケート調査するかというのを考えたものです。今回は700件という判断をさせていただきましたが、今後の検討課題として、もっと多く必要だというご意見もいただきましたので、また考えていきたいと考えております。

<オブザーバー>

今回、連携事業としてワクチン接種の共同実施事業がありましたが、こういう事業があると連携している意味合いがわかりやすいと思います。

全体として連携が進んでいるかどうかというのは、今後KPIの評価をして、次回以降の検討で明らかになるだろうと思いますが、資料1の14ページ、79番の「若者定住促進事業」についてのKPIが圏域人口となっています。圏域人口でKPIをはかるのが適切なのか、不思議な感じがいたしました。KPI自体が、違和感のあるものが幾つかあるなと思っております。そういったところを見直しされてもいいのかなと思います。

<オブザーバー>

地域の実情にすごく合った連携だと感じております。新温泉町は、医療の関係ですとか、教育の関係ですとか、本当に鳥取との連携が強いところで、それは数値としてあらわれています。そういう意味で言えば、新温泉町、香美町にとっての、鳥取との連携ってというのは実

態に即したものであって、今後もどんどん連携していただきたい。次期のビジョン策定にあたって、今後も大いに協力し合って、進んでいくべきものだと思います。

4 その他

次回会議開催時期（7月～8月）について

5 閉会